

セントレアの気象（夏号）

2022年（令和4年）7月

目次

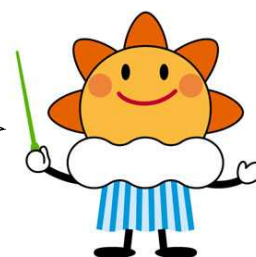
セントレアの気象コラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～4



中部航空地方気象台の気象現業室の風景です。
気象観測や予報作業を連携して行っています。

中部航空地方気象台は、正確な気象観測の通報や適時適切な飛行場警報や予報の発表などを通じて、セントレアに離着陸する航空機や空港に関するみなさまの安全を、24時間365日守っています。

本年度も、気象庁並びに当台の実施する航空気象業務に対するご理解とご協力をどうぞ宜しくお願いします。



はれるん

気象庁マスコットキャラクター



中部航空地方気象台

Chubu Aviation Weather Service Center

2022年7月10日の大雨事例について

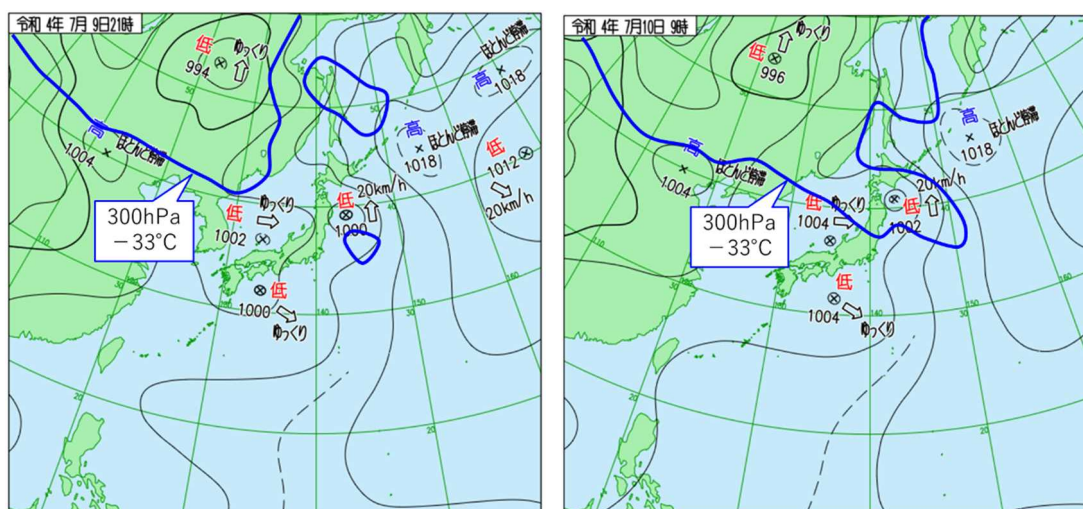
1.はじめに

中部国際空港では、台風接近時や強い冬型の気圧配置時などを中心に強風となることは比較的多いのですが、大雨となることは少ない特徴があります。飛行場大雨警報の基準は1時間 50mm ですが、中部国際空港で観測を開始した 2005 年 2 月以降、観測史上 1 位の 1 時間降水量は、2021 年 9 月 4 日に観測した 47.5mm でした。この事例については、昨年のセントレアの気象（秋号）で紹介しました。

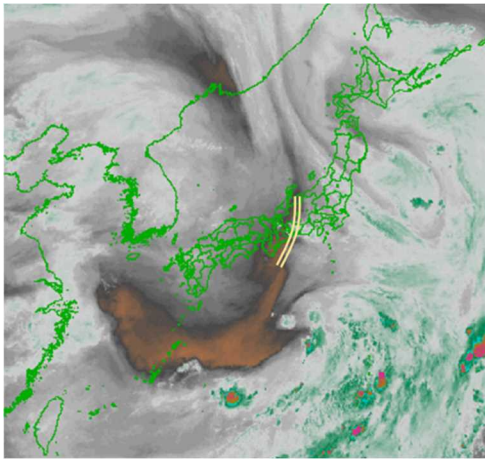
先日（7 月 10 日）、この記録を上回り、中部国際空港での観測史上 1 位となる 1 時間 50.0mm の大雨を観測しましたので、今回はその概要を紹介します。

2.概況

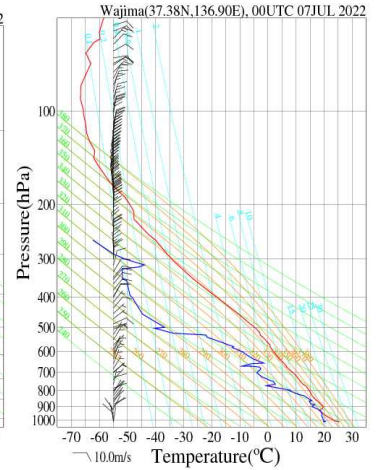
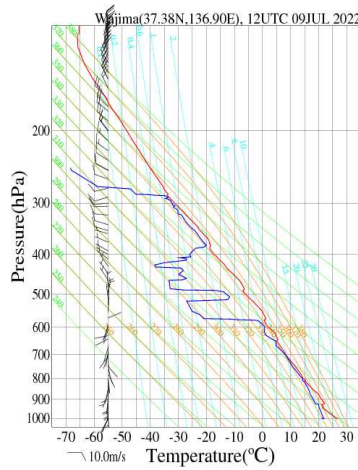
2022 年 7 月 9 日 21 時（以下、日本時間で表記します）には、低気圧が日本海西部にあってゆっくり東進し、10 日 09 時には能登沖へ進んでいます（第 1 図）。一方、上空の寒気（300hPa、上空約 9,600m、 -33°C 、第 1 図中に青色の線で加筆）は、7 月 9 日 21 時では中国東北区から沿海州にあります。10 日 09 時には北陸から三陸沖まで南下しています。9 日 21 時の輪島の高層観測では SSI が -0.4 、可降水量（地上から上空までの水蒸気の総量）が 53 mm で雷雨や大雨の可能性が示されていました。また、気象衛星ひまわりの水蒸気画像（第 2 図）では、上空の気圧の谷が暗域として明瞭に確認でき、これが大雨となった時間帯に中部地方を通過していました。輪島の高層観測でも 200~400hPa 付近の風向は、9 日 21 時では西から北西であったものが、10 日 09 時には北よりに変化したことが確認できます（第 3 図）。このことも、セントレアで大雨となった要因の一つと考えています。



第 1 図 地上天気図(左:7 月 9 日 21 時、右:7 月 10 日 09 時) ※青線は 300hPa(上空約 9,600m)の -33°C 線を示す



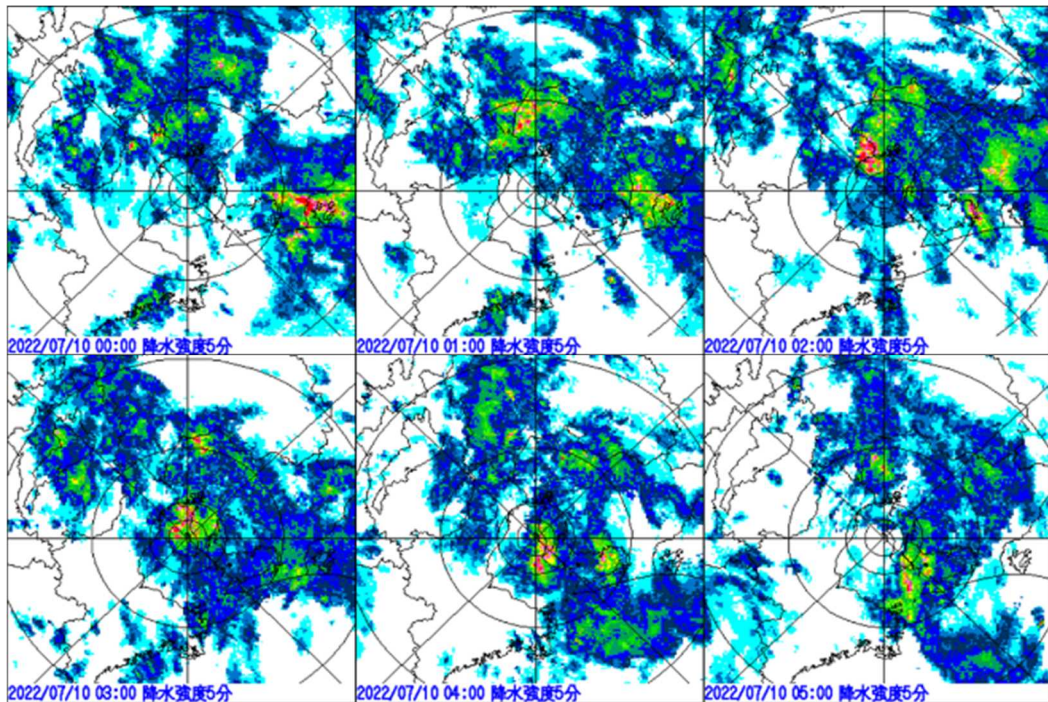
第2図 衛星水蒸気画像(7月10日03時)



第3図 輪島の高層観測(左:7月9日21時、右:7月10日09時)

3. 対流雲の動向

10日00時頃に三重県北部から愛知県西部で対流雲が発達しつつ南東進し、03時過ぎに中部国際空港を通過し、04時過ぎには空港の南東へ抜けていきました(第4図)。空港通過時には雷を観測し、対流雲はエコー頂高度が約15kmに達していました。



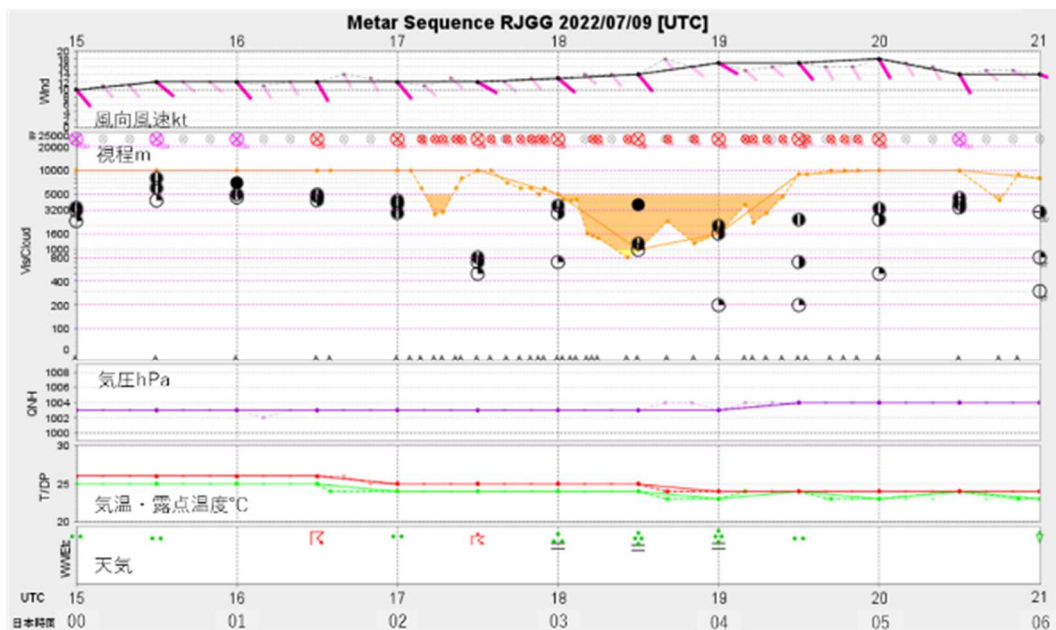
第4図 降水強度(レーダー観測)(7月10日00時00分~05時00分)

4. 気象状況

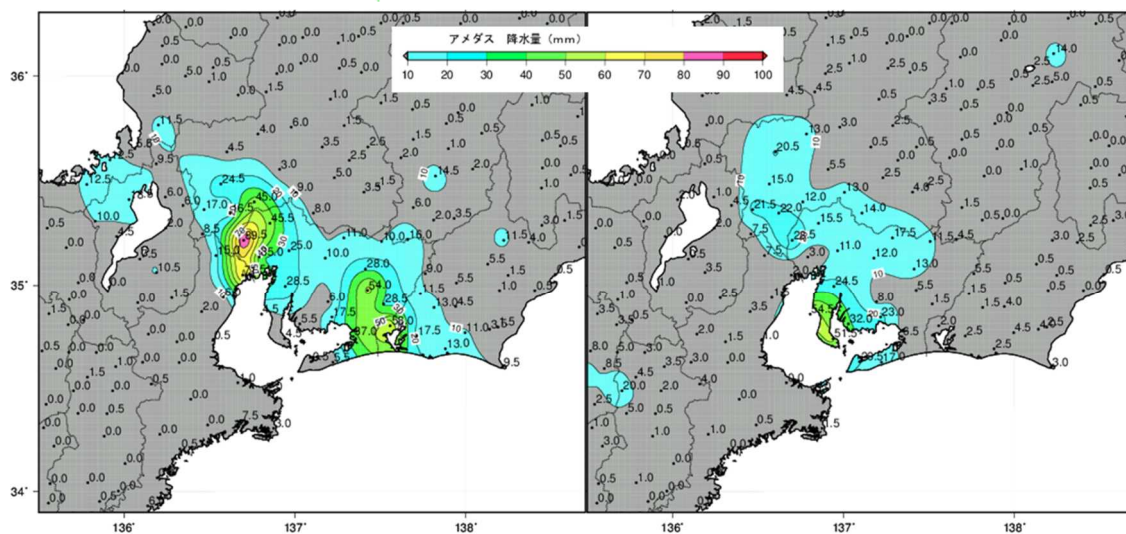
中部国際空港では、9日昼過ぎから、断続的に降水を観測していましたが、10日02時までは視程が低下するほどの強い雨は観測していませんでした。02時以降は、第4図で示し

た通り、三重県北部や愛知県西部から南東進した対流雲の影響で雨が強まり、視程が 5km 未満となりました。発達した対流雲が通過した 04 時頃は、降雨強度 100 mm/h の雨に伴い視程は一時的に 1km 未満となりました(第 5 図)。そして、04 時 05 分に最大 1 時間降水量 50.0 mm を観測しました。なお、気象台では 10 日 03 時 54 分から 04 時 40 分にかけて飛行場大雨警報を発表しました。

7 月 9～10 日にかけては、愛知県では尾張や東三河を中心に大雨となり、愛西では総降水量 200 mm を超える雨量を観測しました。特に 7 月 10 日 00～06 時にかけては、愛知県内で局地的な大雨となりました(第 6 図)。



第 5 図 中部国際空港の実況経過(7 月 10 日 00 時～06 時)
 大気現象の ●・●・▼ は「雨」、⚡ は「雷」



第 6 図 アメダス 3 時間降水量(左:7 月 10 日 00～03 時、右:同日 03～06 時)

5.まとめ

今回は大気の状態が不安定で大気中の水蒸気量も多いなか、上空の深い気圧の谷が通過し対流雲が発達して大雨をもたらしたと考えていますが、予想の難しい気象現象でもありました。中部国際空港では、飛行場大雨警報基準に達する大雨となりましたが、空港施設等への大きな被害はありませんでした。気象台では、このような顕著現象についても、引き続き調査や予報技術の改善に取り組み、より良い気象情報の提供を目指していきます。

今回の大雨を加えて、2022年7月25日現在、中部国際空港における観測史上10位以内の降水量は次の通りです。

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量 (mm)	251.0 (2017/10/22)	124.5 (2010/10/9)	124 (2007/7/14)	117.5 (2019/10/12)	116.5 (2011/9/4)	110.0 (2015/9/9)	98.5 (2014/8/9)	96.5 (2009/11/11)	95.5 (2012/6/19)	95.5 (2009/10/7)	2005/2 2022/7
日最大10分間降水量 (mm)	19.5 (2009/7/26)	19.0 (2009/11/11)	15.5 (2020/9/4)	14.5 (2021/7/3)	14.0 (2010/8/12)	13.0 (2021/9/3)	13.0 (2020/7/25)	13.0 (2019/6/27)	13.0 (2013/9/4)	12.5 (2009/7/22)	2009/1 2022/7
日最大1時間降水量 (mm)	50.0 (2022/7/10)	47.5 (2021/9/4)	40.5 (2009/11/11)	37.5 (2021/8/17)	34.5 (2017/10/22)	34.5 (2015/7/9)	34.0 (2017/10/23)	33.5 (2021/7/3)	33.5 (2015/9/9)	33.5 (2009/10/8)	2005/2 2022/7

セントレアを含む過去の気象データは、気象庁ホームページでご覧頂けます。

気象庁ホームページ 過去の気象データ検索ページ

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

編集 : 中部航空地方气象台
発行 : 中部航空地方气象台
発行日 : 2022年(令和4年)7月25日
〒479-0881
常滑市セントレア一丁目1番(大阪航空局中部空港事務所庁舎)
TEL 0569-38-0002
中部航空地方气象台ホームページ
<https://www.jma-net.go.jp/chubu-airport/>